

昼側中緯度地磁気東西変動の特性

Characteristics of daytime east-west geomagnetic variations at mid latitudes

中野 慎也[1]; 家森 俊彦[2]

Shin'ya Nakano[1]; Toshihiko Iyemori[2]

[1] 京都大・理; [2] 京大・理・地磁気

[1] Kyoto Univ.; [2] WDC-C2 for Geomag., Kyoto Univ.

中緯度においては、昼側での地磁気擾乱時の地磁気東西成分は、負(北半球で西向き、南半球で東向き)になる傾向にある。しかし、その解釈は必ずしも容易ではない。本研究では、昼側の地磁気データを極域電流系のモニタリングに役立てるために、昼側の地磁気東西変動を様々なパラメータと比較した。その結果、特に午後側の変動が太陽風動圧と弱いながらも相関があるという結果を得た。この結果は、磁気圏の昼夜非対称な構造が Region-2 電流の生成に寄与していることの現れであるというのが一つの解釈として考えられるが、さらなる検討を要する。一方、午前側の変動は午後側とは異なる特性を示す。